

入試年度	2026	入試方式	一般（春季）	課程	博士前期
研究科	文学	専攻	史学	領域（分野）	日本史学
出題のねらい					
【I】戦乱は政治・経済・社会の諸側面において歴史に大きな影響を与える。戦乱の原因・様相・結果について適切に叙述し、歴史的に位置づけることができるかどうかをみるのがねらいである。 【II】古代～近代までの歴史知識を問い、幅広く日本史の問題を捉える力を有しているかどうかをみるのがねらいである。 【III】〔選択問題A〕中世史の基本史料の読解と、中世史研究にかかわる専門的知識を有しているかどうかをみるのがねらいである。 〔選択問題B〕近世後期の基本史料の読解と、近世史研究に関わる専門的知識を有しているかどうかをみるのがねらいである。 〔選択問題C〕近現代史の基本資料の読解と、近現代史研究に関わる専門的知識を有しているかどうかをみるのがねらいである。					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
【I】いかなる戦乱を叙述するにせよ、5W1Hに留意することが肝要である。いつ、どこで、誰が、何を行い、なぜ、どのようにして戦乱を起こし、継続し、収束したかを相応な時系列で、的確な用語を用いて述べているかどうかポイントとなる。 【II】①いつ、誰が、どのような社会背景のもとで出した命令であるかを説明する。②いつ頃、どのような社会状況の中、いかなる意図をもってどこに発令されたのか、これがその後の守護権力の拡大や室町幕府の政策といかに関わるのかを説明する。③いつ、誰が、どのような社会状況の中で発令したのかを説明する。④いつ、誰が、何に対する不満から起こした暴動であるのか、またこの事件が近代日本のいかなる社会風潮の先蹤として評価されているのかを説明する。 【III】〔選択問題A〕問一 アひとえに ウなかんづく エついに オことごとく 問二 摂関 問三 a何ぞ況や天台・法相の仏法を摩滅せんや b敵軍の為、其の身を亡ぼし、首を戈鋒に懸けられ、骸を戦場に曝すべきの処 問四 平治の乱について原因や事件の経過、乱後の政治情勢について説明する。 問五 高倉天皇・平徳子・安德天皇の関係について説明する 問六 1180年の南都焼討ちについて説明する 問七 九条兼実の出自、源頼朝との関係などを説明する。 〔選択問題B〕問一 a徳川斉昭 c徳川家光 問二 b大塩平八郎 問三 候文を適切に書き下す。問四 候文について、適切な口語訳を記す。問五 天保9年（1838）に徳川斉昭が「戊戌封事」を将軍徳川家慶に提出した背景について、内憂については天保飢饉を契機とした一揆や大塩平八郎の乱、外患についてはモリソン号事件が起こったことなどを踏まえて説明する。 〔選択問題C〕問一 ア：一九一四 イ：満洲 ウ：台湾 エ：中華民国 オ：朝鮮 カ：ドイツ キ：千島 問二 カイロ宣言 問三（一）ヤルタ秘密協定 （二）ヤルタ会談の背景について、日本史だけではなく世界史的な流れも踏まえて説明する。 問四 カイロ会談の背景と日本と戦っていた連合国について理解できているかが解答のポイントである。 問五 史料文中のヒントとなる文言を見つけ、第一次世界大戦後の委任統治領を指していると気づくことが解答のポイントである。問六 日本敗戦までの流れを踏まえて、時系列に説明する。問七 史料文中の文言をヒントに、日露戦争や日露戦争で日本が獲得したものについて説明する。					